

Voice ヴォイス 第4号

大分県立芸術文化短期大学 サービスラーニング公式新聞

第4号／発行2011年1月7日

リアルタイムで情報発信 (((地域密着ブログ))) 続々エリア拡大中！

7月に参加した「竹田食育ツーリズム研修」を皮切りに本格的に取り組んでいる地域発信ブログ。開始当初は地域活動に参加する学生の活動メモとして利用していたが、活動に関わる地域の方からのコメントを頂くことも増え、次第に学生と地域が双方で発信するブログへと変化した。現在は活動までの準備過程や本番当日、終了後の交流・発展などの様子をタイムリーに更新している。
①知識や体験の仕込み（ネタ作り）、②体験を捉え返し（ネタもみ）、③物語を紡ぎ出す（ネタみせ）。今後はこれら3つのステップアップを念頭に、実践を豊かにする知識と観察眼、表現力のさらなるパワーアップを目指したい。

竹田農家民泊

私は某ちよくれ竹田研究会のお手伝いをしています。この企画は大分県立芸術文化短期大学の授業の一環として実施されています。学生は「農家の視点」で、竹田の皆さんには「自然の視点」で、お互いに意見交換しながら、農家の方々に伝えたいことを開催しています。更には竹田に農業技術を教わられた方に「私のアドバイス」を書いてもらったりしています。



芸文短大竹田交流ブログ

<http://takatanoukaminpaku.junglekouen.com/>



さがのせき地域発見サイクリング

<http://saganoseki.junglekouen.com/>



府内学生エコフェスタブログ

<http://ameblo.jp/5bangai/>



大分七夕まつりブログ

<http://tanabata.junglekouen.com/>



芸文短大七夕まつり

2010年08月13日 大分県内農業祭開催で開催されたイベントの記録です。



キャンパスカフェブログ

<http://ameblo.jp/campuscafe2>



日韓次世代交流ブログ

<http://ameblo.jp/j-k-nextfilm/>



SAEMON 23 ブログ

<http://saemon23.junglekouen.com/>



芸文短大 SAEMON 23 実行委員会 2010

2010年07月24日 大分合田新町一帯。



Our Narrative Ability

※ナラティブ…物語、物語の。本取組みでは誇れる自分の物語を探し、創り、発信してほしいという意味づけで使用。

笑った、泣いた、考えた!
私たちのナラティブ能力

成長日記

全学科を対象として実施している「体験をスキルに変えるナラティブ能力育成－サービスラーニングを中心とした自己の物語を探し創り発信する能力の形成プログラム」も今年で2年目を迎える。昨年に比べ、活動内容の充実やコミュニティパートナー（地域の協力者）との連携も深まり、有意義な取り組みが実施された。今回紹介する取り組みは全17件。あの体験は一体何だったのか、地域社会や自分自身の何をどう反映していたのか、それは自分をどう成長させたのかについて深く掘り下げながらこれまでの体験を振り返ってみる。



とうきびプレミアム収穫体験

7月17日

竹田食育ツーリズム研修

本学が相互協力協定を結ぶ竹田市との事業として竹田市経済活性化促進協議会の協力を得て実現。地域の実情を知り情報発信に役立てることを目的に、食育ネット代表・本山秀樹氏の講演「たけた食育ツーリズムとは」と『竹田創出拠点エリアラボ』の研修に参加。



竹田の町並み散策や地域活性化の醍醐味や商品開発についての話を聞いた。必要な人材は、よそ者・若者・ばか者なのだそう。ばか者の常識にとらわれない姿が地域おこしに必要とされると聞き、自分にも向いているかもしれないと思っただけだった。

松尾 徳（2年）

農家民泊

情報コミュニケーション学科23名の学生が「来ちよくなれ竹田研究会」に属する10戸の農家に分かれて民泊。ぶどう狩りやうどん打ち、魚釣りや木工作りなど様々なフィールドワークで農家の魅力を発見し、情報発信に役立てるよう試みた。



農家民泊での体験は全てが初めてだったので新鮮でとても良い経験となった。何よりも嬉しかったことは民泊先のお父さんとお母さんが、私たちを本物の娘のように思ってくれたこと。帰る時は本当に涙が出しそうだった。この出会いを大切にしたいと思う。

齊藤 芹（2年）



SAEMON23

(第37回清正公二十三夜祭歩行者天国)

旧熊本藩の飛び地であった鶴崎地区で毎年開催される祭り。主催は鶴崎商工青年部。本学は第31回から参加しており、今年もダンスを筆頭に会場内のゴミを収集するエコステーションや子どもが楽しめるワークショップを企画・運営した。



7月18日

とうきびプレミアム収穫体験

早朝4時から活動した竹田市菅生（すごう）でのプレミアム収穫体験。農業研修で滞在中の外国人スタッフの助けを得ながら、とうきび収穫に挑んだ。お楽しみは採れたてとうきびの試食。最も糖度が高いといわれる早朝収穫直後のとうきびはメロンにもまさる甘さ！



収穫体験をして、朝早くから働く農場の方々の姿を目の当たりにした。とうきびに限らず、どんな食材のパックにも自分の作るものに誇りを持って汗を流している人たちが多い。それを意識すると食材は一番新鮮でおいしい時に食べなきやだめだと思った。

瀧本 圏絵（2年）

とうきび フェスタ

『道の駅すごう』で毎年開催される「とうきびフェスタ」。学生は主にとうきび関連の物販を担当。竹田で採れたとうきびの甘さを先に体験した学生は声を大に胸を張って商品を売り込み、イベントの盛り上げに努めた。



とうきびフェスタでは菅生地区で採れたスイートコーンの販売スタッフとして働いた。対面販売のバイト経験を活かして、笑顔と大きな声を心掛けた。受け身で参加するのではなく、積極的にコミュニケーションを取り行動することが大事だと思った。

久保田 美加（2年）

7月23日

SAEMON23

(第37回清正公二十三夜祭歩行者天国)

旧熊本藩の飛び地であった鶴崎地区で毎年開催される祭り。主催は鶴崎商工青年部。本学は第31回から参加しており、今年もダンスを筆頭に会場内のゴミを収集するエコステーションや子どもが楽しめるワークショップを企画・運営した。



昨年に続き2回目の参加だったが今回は全体の委員長として活動した。参加者のほとんどが1年生だったが、先輩と後輩という関係ではなく仲間として活動できるように心掛けた。みんなにはサエモンが終わった後も一緒に活動した仲間として何か残せていたらいいと思う。成松 美由紀（2年）

8月7日

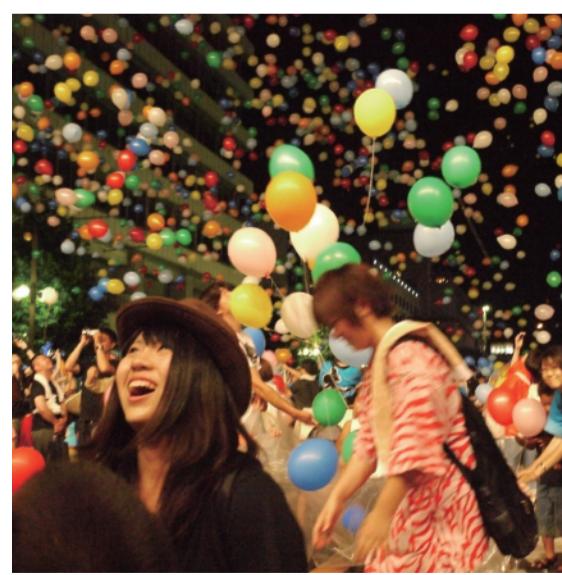
七タブロードウェイ2010

大分駅前から昭和通りまでを歩行者天国とする大分七タまつりの中日に開催された「七タブロードウェイ2010」。主催は大分青年会議所。フィナーレでリリースする1万個の風船づくりと法華クラブ前の特設会場の運営やステージパフォーマンスに参加。



私は綿菓子のブースを担当した。当日はお昼から作り始めたのだが、時間が経つにつれ綿菓子と袋がしほんでしまい、詰めなおす作業が大変だった。しかし、看板作りから最後までみんなと楽しく活動ができ、夏のいい思い出になった。また参加したいと思う。

太田 有里紗（1年）



8月25日～29日

第35回 湯布院映画祭

1976年、湯布院町の村おこしと大分市の映画ファングループが意気投合して生まれた日本で一番古い映画祭。全員ボランティアによる実行委員形式で、会場の設営から片付けまで映写以外のすべての作業を実行委員が行う。



8月に催された湯布院映画祭にスタッフとして参加した。私が湯布院映画祭のボランティアとして参加したのは初めて。5月初めから会議などにも参加した。裏方の大変さと接客の大変さを実感した。多くの人が映画を見に来てくれたことがとてもうれしかった。

中村 優伽（1年）

9月18日

おおいたスポーツ広場 2010

9月18日、大分トリニータ、大分三好ヴァイセアドラー、パサジイ大分、大分ヒートデビルズなど大分のトップスポート選手が大分銀行ドームに集結。県民と選手との交流会やウォーキング教室などを開催。学生も着ぐるみを来てイベントの運営をサポートした。



私は大分のスポーツチームを応援する交流会に参加し、イベントの運営や人を誘導する難しさなどを体験した。当日はスポーツ選手を間近に見られたり、試合観戦もできたりして私自身も楽しむことができた。これからも積極的に参加していきたいと思う。
赤嶺由香（1年）

10月9日、10日

第3回 おおいた夢色音楽祭

大分市街地の活性化を目的とするイベント。大分駅周辺の各所で、県内外からの音楽アーティストが集い、演奏を行った。本学の学生はボランティアスタッフとして会場設置や観客誘導、物販、各ステージの進行などを担当。



場を盛り上げるためにどうしたらよいか。そう考えながら臨んだ人生初のMC。言葉で相手に興味を持たせる大変さを知った。2日間手探りで進行をしていたせいか何度も失敗をした。全てが終わった後、疲れと達成感が同時に来た。それがとても心地良かった。
天本聖菜（1年）

10月16日

来ちよくれ 竹田研究会との交流

7月に体験した竹田市の農家民泊から派生した交流。芸文短大竹田キャンパスに来ちよくれ竹田研究会のみなさんを招待し、そこで竹田市の魅力を学生ならではの視点で作成したホームページ「たけたみつけた。」の紹介と、学生も農家さんも書き込み可能なブログ講習会を開催。



普段、パソコンを使い慣れていない方にブログの更新を教えるという作業は思った以上に難しかった。しかし、自分たちが生活している竹田市や農家民泊の魅力を伝えたいからと一生懸命覚えようとする姿を見て、私も応援したい気持ちが大きくなつた。
中原綾乃（1年）

11月6日～14日

第1回 長湯温泉巡回日韓短編映画祭

竹田市と大分県立芸術文化短期大学は「相互協定」書を締結しており、地域振興イベントの第一弾として、竹田市観光ツーリズム協会と、同大学、地域住民が実行委員となり、共同で企画された映画祭。学生と地域、日韓映画関係者との交流による地域活性推進が目的。



スタッフとして、色々な体験をした。多くの映画関係者のお話を聞くことも、韓国の映画をたくさん見ることもありできることだ。スタッフとして映画祭を支えつつ、触れられたのはとても幸運だった。次回も、映画祭を運営する立場で参加したいと思う。
山下義世（1年）

11月13日、14日

第30回記念 大分国際車いすマラソン大会

昭和56年の国際障害者年を記念して始まった大分国際車いすマラソン大会。今年で30回目を迎える。本学の学生は国内各地から参加する選手のサポート等を行うボランティアと、当日の大会を記録する撮影スタッフとして参加。



30回大会は皇太子殿下をお迎えして午前11時にスタート。私たちは、42台のカメラで記録するプロジェクトに総勢60名で取り組んだ。平均時速30kmというハイスピード競技を始めて観戦、そのスピード感を映像で再現することはそれ自体とても貴重な経験だった。
橋口みさき（1年）

11月27日
12月4日、11日、18日、19日

スローライフ講座（全5回）

芸短フェスタの一環で本学にて公開講座として全5回開催（12月18日、19日は竹田キャンパスにて実施）。講師は竹田市で加工所や農家民泊をやっている方々。講座企画や司会進行を学生が担当。生活の中心にある食を中心としたりと過ごすライフスタイルの最前線を学んだ。



講師の方から教わったことは、スローライフは少しの工夫で取り入れができるということだ。体を意識することを忘れない大切な学生にとって、いい刺激になったのではないだろうか。多くの方の協力があったからこそ成功し、私も大きく成長できたと思う。
西由紀子（2年）

12月6日

竹田食の円卓会議

竹田市総合社会福祉センターを会場に生産者・製造者・消費者等が一堂に会し、「食」の安全安心な取り組みの情報共有と相互理解を深める会議（大分県主催）。本学からも学生代表2名が「農家民泊の情報を楽しく発信」をテーマにこれまでの活動を発表した。



竹田市のイベントなどに実際に参加し魅力を感じたことを情報発信していく。と考えたことが始まりである。それを地域の皆さんに発表できたことを大変嬉しく思う。一過性のものではなく継続した活動を、学生だけでなく地域の方とともにできたらと考える。
谷口未樹（2年）

12月21日

芸文短大キャンドルナイト

本学にて毎年開催する環境イベント。テーマは「環境問題や地球で暮らす全ての人々について考え、見つめ直してみよう」。今年は新たに環境や貧困などの実情を追及したドキュメンタリー映画の上映やキャンドル演出に竹楽で使用した竹灯籠を起用した。



初めて参加したキャンドルナイト。環境サークルとして企画に携わり、環境に関する映画の紹介をした。私たちの発表を通して、環境について考え直す良いきっかけとなればと思い、一人ひとり真剣に取り組んだ。この想いが皆に伝わっていれば幸いである。
相馬志織（1年）



※各サービスラーニングの写真と、コメントの学生は同一ではない場合があります。

Activity report

サービスラーニング発祥の地 アメリカで視察

2010年2月22日から3日間、米カリフォルニア州でサービスラーニングの取り組み視察を実施した。現地ではボランティア活動がさかんで、大学におけるサービスラーニングも定着している。その先進事例に学び、芸文短大のプログラムに活かそうというものだ。

視察グループ(代表・吉良伸一教授、以下4名)が訪問したのは、1日目ノートルダム・ド・ナミュール大学(ペルモント)、2日目ドミニカン大学カリフォルニア校(サンラファエル)、3日目キャンパスコンバクト・カリフォルニア州事務局。事前に視察計画を事務局に打診し、受け入れを表明していただいた2校を訪ね、あわせて事務局で定期的に開催されているコーディネータ会議に参加したものである。

まず視察のポイントを整理しておこう。ポイントは5つ。「どのような活動メニューがあるのか」、「学生の取り組み、成長ぶりはどうか」、「コミュニティパートナーとの関係はどうか」、「活動成果の評価基準はどうか」、「実施体制はどうか」。いずれも是非とも知りたかったことばかり。こうした視点から、当日の模様を振り返ってみよう。

◆ コミュニティサービスは社会正義 ノートルダム大学から



移民女性に教育機会を与えるべく設立された大学。カソリックの思想性も影響してか、「サービスラーニングの目的は社会正義」と明快な答え。

コミュニティサービスを東ねる学内機関があり、年間300時間以上活動した学生には、奨学金制度もある。

体験メニューも豊富で、地元の博物館やギャラリーで学生が企画展示をする「キュレーター育成」や、貧困、ドラッグ蔓延の構造的な問題を現地で考える「インナーシティを往く」、子どもに科学を教えて共に遊ぶ「科学チューイー育成」など、興味深かった。ラティーノの卒業生が、活動をとおして自分の民族の問題を仲間と真剣に議論した、と語る姿が印象的だった。既存の体験メニューを参考にして、協力を願い出てくれるコミュニティパートナーも多いそうだ。

◆ 活動管理のシステムづくり コーディネータ会議から

州内の各学で地域活動をコーディネートしている実務者による会議で、舞台裏の話が飛び交っていた。学生の活動レポートを一括管理するシステム構築が必要であることや、慣れない学生を送り込むさい、安全上のリスク管理が疎かになりがちであるといった問題点が指摘されていた。

視察のまとめ

- 視察から得た3つの指針 —
- ① 専門科目とのつながり強化
- ② リフレクションの徹底
- ③ 日本的・芸短的文脈の検討

講義と活動のつながり秀逸

本学プログラムへの反応

ノートルダム大学では、本学の取り組みに意見を伺う機会を得た。まず、情報コミュニケーション学科が、30時間以上の活動を選択必修科目としている点に驚かれた。また、学生たちがそれをきちんとクリアし、卒業して行くことに対して、評価が高かった。

そして、コミュニティパートナーを学内に招待し、講義で呼びかけてから、学生が活動に赴く流れは、秀逸であるとされた。他方、アカデミックな観点からの掘り下げについては、課題を指摘された。たとえば、「鶴崎 SAEMON23」は地域活性化の話に限定せず、宗教社会学的な角度からも学生にリフレクションをうながすべきとする意見もあり、研究者としても刺激を受けた。



◆ 活動して自分の価値を悟る ドミニカン大学から

ノートルダムと同様に、カソリック系のリベラルアーツ大学。高い倫理觀をもったグローバル市民の育成を旨とする。サービスラーニングはセメスターごとに200人前後が履修し、活動時間はのべ4000時間を超える。

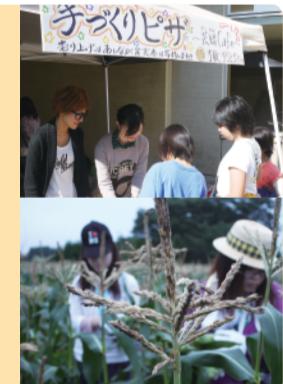
「自分の価値を悟る」ことを目的にする取り組みゆえに、体験メニューは多様な価値観に開かれている。栄養学にもとづく配食サービスで貧困地区の「食の福祉」を実現するもの、パブリックアートによるコミュニティ再生の試み、エイズの啓発・支援をとおして社会的マイノリティの理解を深めるもの、など。かつて法曹を志していた富裕層の学生が、貧困地区における教育の不在を目の当たりにし、現在は教師を目指している、という。これこそ、眩しいほどのナラティブであると感銘を受けた。



Information

地域活動フォーラム 2010 2月1日(火) 開催!

2月1日、芸文短大生によるサービスラーニングの報告会がコンバルホールにて開催されます。今回のフォーラムでは、取り組みについての説明と、学生による活動発表を行います。学生による活動報告は平成22年度で取り組んだ活動から、SAEMON23、環境活動(上野の森の会・上野の森アートフェスティバル等)、あしなが育英会(学生募金・Pウォーカー)、竹田食育ツーリズム研修、大分七夕まつり、府内学生エコフェスタ、日韓次世代交流映画祭などを予定しています。



Voice

大分県立芸術文化短期大学 サービスラーニング公式新聞

〒870-0833 大分市上野丘東1番11号 大分県立芸術文化短期大学
tel.097-545-0542(代表) / fax.097-545-0543